

クラブ/マッチ・ウェルフェアオフィサー 認定講習会

リスペクト&フェアプレーの浸透と それを支えるウェルフェアオフィサー



2025年11月30日（日）
公益財団法人埼玉県サッカー協会

CONTENTS

1. リスペクトとフェアプレー

2. ウェルフェアオフィサー制度

3. 暴力暴言等（パワーハラスメント）



※本講習受講後、日本サッカー協会Webサイトにある以下のコンテンツもご覧ください。

「クラブウェルフェアオフィサーハンドブック」

(https://www.jfa.jp/respect/safety_protection/welfare_officer_handbook.pdf)

「セーフガーディング eラーニング（クラブ・ウェルフェアオフィサー向け）」

(https://www.jfa.jp/respect/safeguarding_e-learning.html)

1.リスペクトとフェアプレー



1. リスペクトとフェアプレー






Fair Play (フェアプレー)

公平・公正

- ◆ 偏っていない (プレー/行動)
- ◆ えこひいきのない
- ◆ 規則 (ルール) を守った
- ◆ 多くの人が正しいと思う
- ◆ 相手の立場にたった
- ◆ 人間として求められる



1.リスペクトとフェアプレー

- ①ボールを競り合って転倒し負傷した相手選手に駆け寄り、大丈夫ですかと聞き、手で引き起こした。 
- ②マラソンで、隣に走っていた選手がうまく水を取れなかったので、自分の水を分けてあげた。 
- ③試合後、あの審判のミスで試合に負けたと言いつらした。 
- ④相手が近くにいただけだが、転んでしまったところ、主審がファウル、PKとした。相手がかわいそうなので、ペナルティーキックをわざと外した。 
- ⑤相手の足を踏んで、転んでしまったところ、主審がファウル、PKとした。主審にファウルされていない、相手を踏んで転んだだけと話した。 

1.リスペクトとフェアプレー

- ⑥相手の体に強い打球が当たってしまったので、相手に謝った。 ✓
- ⑦ボールが遠くに行ってしまうと、それを取りに行ってくれた相手選手が守備に就くまでプレーするのを待った。 ✓
- ⑧ミスショットに頭がきて、ラケットを投げつけた。 ✗
- ⑨相手がミスをするようベンチから野次ったところ、相手がミスをしたので喜んだ。 ✗
- ⑩卓球で10-0 とリードしたので、1 点ミスしてポイント与えて、相手の完封負けを避けた。 ✗

1.リスペクトとフェアプレー

リスペクトとフェアプレー

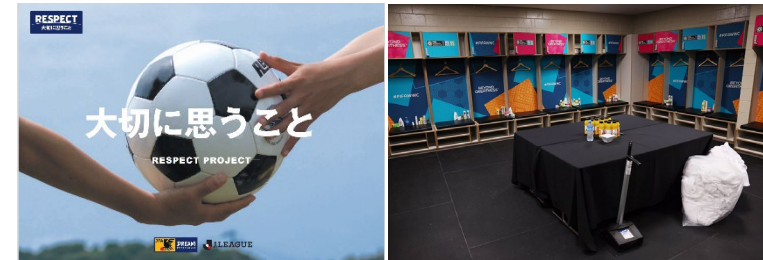
大切に思うこと

リスペクトとは… フェアプレーの原点



ピッチ上の人、それを支え、とりまくすべての人・ものを互いに「大切に思うこと」

大好きなサッカーをもっと楽しむために、
互いを「大切に思うこと」
「フェアで強い」日本サッカーを目指して



1.リスペクトとフェアプレー

リスペクトとフェアプレー



1.リスペクトとフェアプレー

JFAの理念とリスペクト

＜JFA理念＞

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する

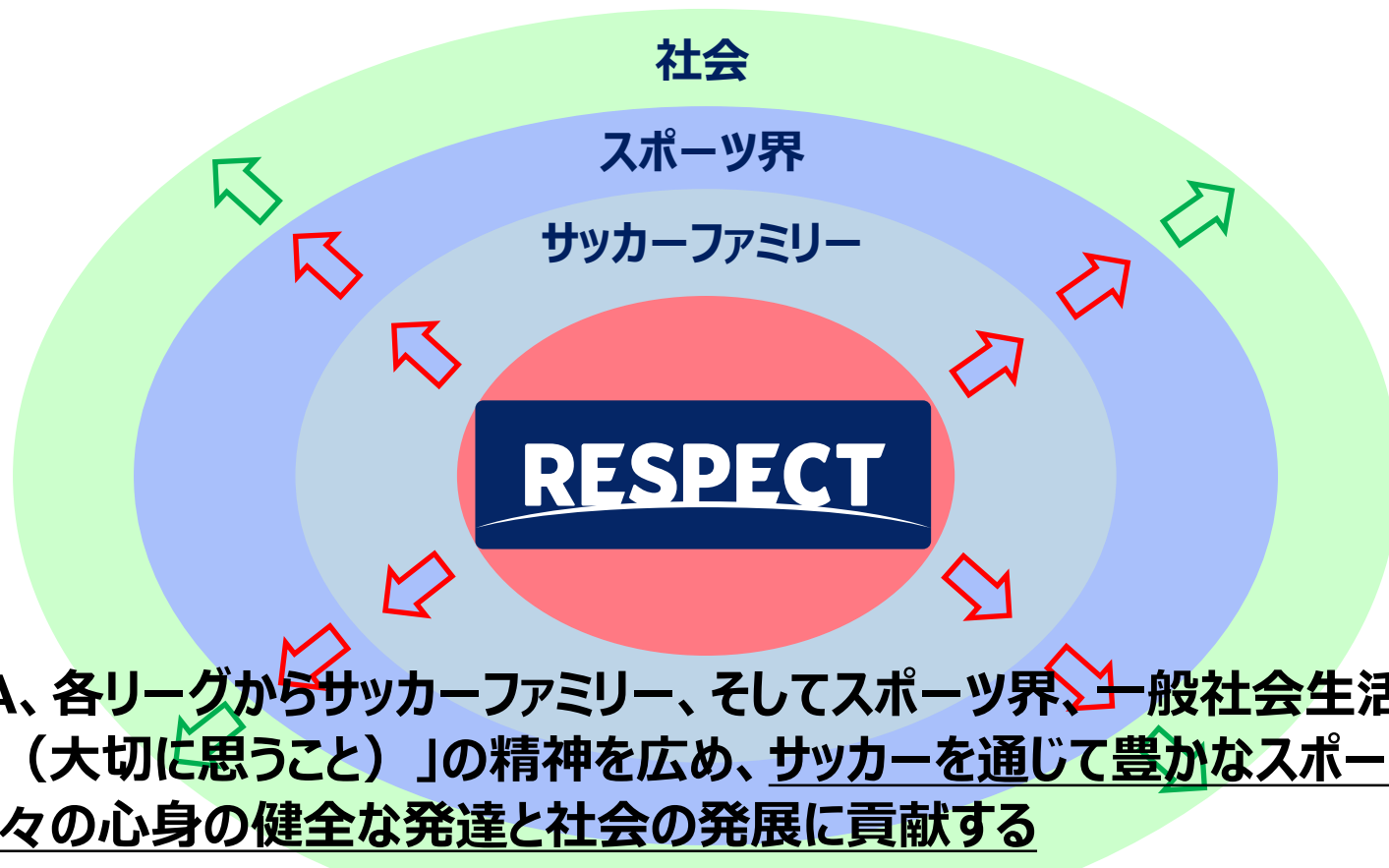
リスペクトは、JFAのバリュー（価値/価値観）の一つ

エンジョイ
プレーヤーズファースト
フェア
チャレンジ

リスペクト

1. リスペクトとフェアプレー

広がるリスペクト・フェアプレーの輪



JFA、各FA、各リーグからサッカーファミリー、そしてスポーツ界、一般社会生活に「リスペクト（大切に思うこと）」の精神を広め、サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する

リスペクトが広まることによりサッカーの価値も向上する

1.リスペクトとフェアプレー

リスペクト・フェアプレー推進活動

2008年 JFA/Jリーグ リスペクトプロジェクトに向けWG発足決定

<啓発>

Players First、Green Card...（2007以前から）

リスペクトシンポジウム（2009）

リスペクトFC（2010）、ポスター、ハンドブック

<活動> グリーンカード

マッチ・ウェルフェアオフィサー（2013）

<制度>

暴力等根絶相談窓口（2013）

ウェルフェアオフィサー制度（2015）

* WOジェネラル

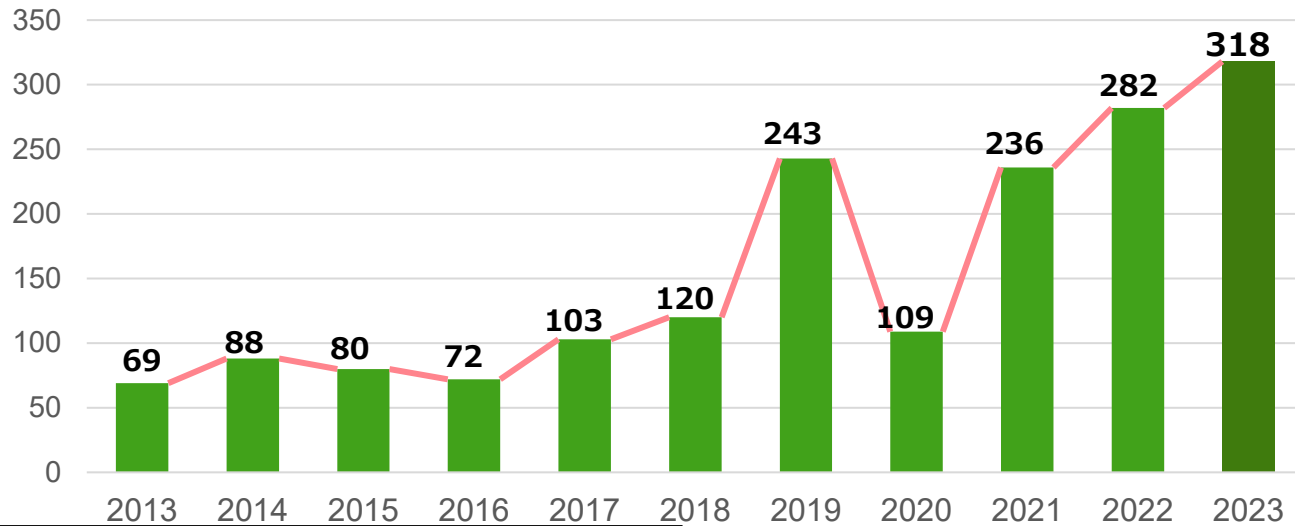
* 47FAにおけるマッチWO、クラブWO設置推進

<サッカーにおけるバリューを確認>

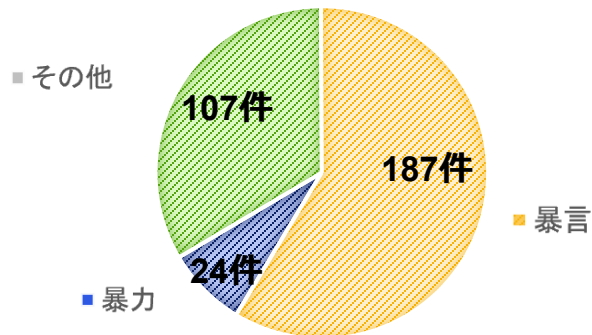
エンジョイ、プレーヤーズファースト、フェア、チャレンジ、**リスペクト**

1. リスペクトとフェアプレー

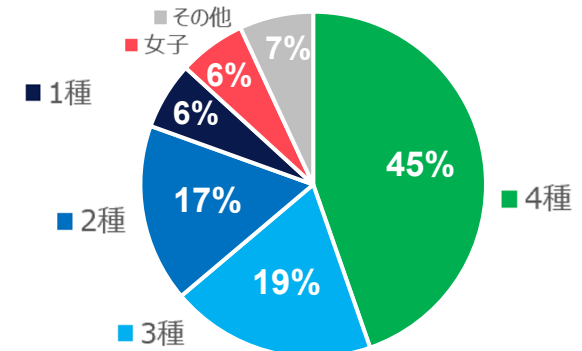
JFA暴力等相談窓口への通報件数（2013年～2023年）



2023年通報(318件)の被害分類



2023年通報(318件)の種別割合



2.ウェルフェアオフィサー制度



2. ウェルフェアオフィサー制度

基本的な考え方

起こってしまったケースへの対応

→ 完全な解決にいたらないケースが多い

啓発 = 予防こそ大切！

- 指導者の過去の経験と目の前にいる選手たちとの意識、感覚、期待のギャップ
- 保護者との意識、感覚、期待のギャップ
- 指導者として良かれと思っての言動が、ネガティブな結果を生み出す可能性があることを知る → 気づきを伝える
- 身近な仲間が気づきを伝える勇気、伝え合う文化、身近に相談できる存在

2. ウェルフェアオフィサー制度

サッカーの指導現場の安心・安全を守るために

ウェルフェアオフィサー制度（2015年から開始）

「ウェルフェア」＝ 安心・安全、幸せな状態を守る人

ウェルフェアオフィサーの種類

WOG ■ 組織のWO
(ジェネラル)

日本サッカー界のネットワーク
予防・啓発念頭に
各組織に応じた 組織化

MWO ■ 試合・大会
におけるWO
(マッチ)

試合の場で
多くの人に関わってもらって
見ている人にも

CWO ■ 各クラブのWO
(クラブ)

全国の日常へ、隅々まで
皆の身近で
全員の役割

2. ウェルフェアオフィサー制度

種類

- ① ウェルフェアオフィサー（ジェネラル）
- ② マッチ・ウェルフェアオフィサー
- ③ クラブ・ウェルフェアオフィサー

役割

- ① リスペクト・フェアプレーの啓発・促進
- ② 暴力・差別等の予防活動（未然に防ぐ）
- ③ 課題やリスクへの対応
- ④ 司法機関や諸関連施設への橋渡し役

“ウェルフェアオフィサー” は、
リスペクト・フェアプレーを伝える人

2. ウェルフェアオフィサー制度

ウェルフェアオフィサーの概念図

サッカー界に顕在化する諸問題

性的犯罪
いじめ
ハラスメント
差別
暴力
暴言
不平等
ドラッグ

ウェルフェアオフィサーの役割

啓発・予防

- ディスカッション
- 講習会
- 研修会
- キャンペーン 等

対応

- 相談 等

関係機関 への橋渡し

- 規律・裁定委
- 技術・審判委
- 外部機関 等

【ウェルフェアオフィサーの種類】

①
協会・連盟等の活動
ウェルフェアオフィサー（ジェネラル）

②
大会やリーグ戦
マッチ・ウェルフェアオフィサー

③
クラブでの日常活動で
クラブ・ウェルフェアオフィサー

2.ウェルフェアオフィサー制度

<ウェルフェアオフィサー（ジェネラル） W O G >

- 組織の中で安心・安全を守る
（MWO, CWOと共に）
- 啓発・リスク管理を通して予防をする
- 起こったケースの橋渡し、専門組織と連携して対応する
- 2022年よりチーフを配置し、組織化。必要な配置を。
- 予防を重視した上で、計画的に活動

2. ウェルフェアオフィサー制度

＜マッチ・ウェルフェアオフィサー MWO＞

- 大会として、暴力根絶に取り組む
- その役割の人を置き、内外に明確に
- 管理、監視、取締り、処分をするのではなく、あくまでもサッカー仲間としての気づきを伝える。
- 指導者→選手のみでなく、サッカーの試合をつくるあらゆる要素
- 大会を通した啓発、情報発信

チェックリスト ⇒ 報告書作成例

2. ウェルフェアオフィサー制度

<クラブ・ウェルフェアオフィサー CWO>

- クラブの中で安心・安全を守る（W O Gと連携して）
- 安心・安全の重要性をクラブのメンバーに伝える
- 啓発・リスク管理を通して予防をする
- 起こったケースの橋渡し、専門組織と連携して対応する
- 種別を問わず、全クラブに担当者を置く方法へ

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）



3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

暴力暴言等（パワハラ）と指導

リスペクト・フェアプレーの考え方が浸透し、暴力・暴言を否定し、根絶する動きが広がっている。

一方、暴力等（パワハラ）についての相談は、依然あとを絶たない。

暴力等（パワハラ）と指導の違いを曖昧にし、「パワハラではなく、指導の一環」と判断し、自分たちの行為を合理化している人たちがいる（意識的/無意識にかかわらず）。

＊ 指導者・コーチ、クラブ役員、保護者、あるいは選手自らも

安心・安全は、
関わる全員の役割



3. 暴力暴言等（パワーハラスメント）



3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

暴力暴言等（パワーハラスメント）とは

＜ 3つの要素と6つの類型（厚生労働省） ＞

● 3要素

- (1) 優越的な関係に基づいて（優位性を背景に）行われる
- (2) 業務の適正な範囲を超えて行われる
- (3) 身体的若しくは精神的な苦痛を与える、または就業環境を害する

● 6類型

- (1) 身体的な攻撃（暴力）
- (2) 精神的な攻撃（人格を否定するような言動）
- (3) 人間関係からの切り離し
- (4) 過大な要求
- (5) 過小な要求
- (6) 個の侵害

・パワハラは、サッカークラブといった組織にも起きている（暴力暴言等）
・WO（特にCWO）は、日常の中で気づきを伝え合う文化を醸成し、できるかぎり早期に是正・解決を目指す

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

スポーツにおける暴力暴言等（パワハラ）

● 3要素

要素	具体例
(1) 優越的な関係	地位（監督やコーチなど）や年齢、体力の優位性年齢、役職、フィジカルの強さをもって行われる
(2) 不適正な活動	サッカーやクラブ活動には必要性がなく、その態様がその活動にふさわしくない、また、クラブの活動目的以外で行われる
(3) 苦痛を与える	身体的/精神的に圧力を加えられ負担と感じさせる。 クラブ内での環境が不快なものとなり、活動に悪影響を生じさせる。

パワーハラスメント：

「同じ組織（競技団体、チーム等）で競技活動をする者に対して、職務上の地位や人間関係などの組織内の優位性を背景に、指導の適正な範囲を超えて、精神的若しくは身体的な苦痛を与え、又はその競技活動の環境を悪化させる行為・言動をいう。」

2013年12月「スポーツを行う者を暴力等から守るための第三者相談・調査制度の構築に関する実践調査研究協力者会議報告」

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

スポーツにおける暴力暴言等（パワハラ）

● 6 類型

類型	具体例
(1) 身体的な攻撃	暴行・傷害
(2) 精神的な攻撃	脅迫・名誉棄損・侮辱・ひどい暴言、差別的言動
(3) 人間関係からの切り離し	隔離・仲間外し・無視
(4) 過大な要求	競技上明らかに不要なことや遂行不可能なことの強制、競技活動の妨害
(5) 過小な要求	競技上の合理性なく、能力や経験とかけ離れた程度の低い練習を命じることや練習をさせない
(6) 個の侵害	私的なことに過度に立ち入る

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

パワハラ類型別具体例（多種多様ではあるが）

（１）身体的な攻撃（暴力）

- ・直接暴力（殴る、ける、物を投げつける/けりつける）
- ・練習の名を借りた暴力（罰走、罰として腕立て伏せ）
- ・暑熱下の状況で水を飲ませない
- ・丸刈りを命令する
- ・根拠のない高負荷な練習を課し、選手を負傷させる

（２）精神的な攻撃（人格を否定するような言動）

- ・身体的特徴、出自、人種について言及する（肌の色、障がい）
- ・男女差について言及する（男なのに、女だから）
- ・必要以上に大声で、叱責する
- ・必要以上に長時間にわたる厳しい叱責を繰り返す行う
- ・他人（チームメート含む）の前で、威圧的な叱責を行う
- ・監督自らは手を出さず、選手に殴らせる
- ・選手の意向を無視して進路を決める
- ・授業より練習を優先させる
- ・監督の言うとおりにしていれば良い、と言う

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

パワハラ類型別具体例（多種多様ではあるが）

（３）人間関係からの切り離し

- ・理由もなく、別メニューの練習を行わせる
- ・グループミーティング、チーム行事に参加させない
- ・試合（練習）日程を知らせない
- ・特定の選手に近づかないよう指示する

（４）過大な要求

- ・無理な練習目標を設定し、それができなかったことを叱責する
- ・負傷にしているにもかかわらず、練習を休ませない、試合出場を強いる
- ・どんなことをしてでも（ラフプレーをしても）勝利するよう指示する
- ・平等の名の下、身体的能力が下回る選手に過度な練習を強いる

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

パワハラ類型別具体例（多種多様ではあるが）

（５）過小な要求

- ・理由もなく、別のトレーニングをさせる。トレーニングをさせない
- ・戦術を理由（隠れ蓑）に試合に出場させない
（精神的な攻撃も？）
- ・平等の名の下、個人の潜在能力を引き上げる練習をさせない

（６）個の侵害

- ・SNSで選手等への悪口を拡散させる
- ・選手に関する嘘（不確かな）情報を流布する
- ・承諾なく、選手等の個人情報暴露する、写真を拡散する
- ・チーム移籍を認めない
- ・選手（保護者）との関係不仲でその選手の兄弟姉妹の選手に対して不利益な行動をとる

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

パワハラチェック表

チェック項目	評価
① 暴行・傷害・脅迫・名誉毀損等、刑法に抵触する言動をしていませんか	
② 人格否定や体罰等、人間としての尊厳を侵害する言動をしていませんか	
③ 地位や立場等、人間関係の優位性が背景にありませんか	
④ 指導や教育の適正な範囲を超えていませんか	
⑤ 複数回、または、執拗ではありませんか	
⑥ 相手に身体的・精神的苦痛を与えていませんか	
⑦ 周りの選手が萎縮する等、活動環境を悪化させていませんか	
その他（特記事項）	

引用：PHP研究所（実践！グッドコーチング～暴力・パワハラのないスポーツ指導を目指して～）

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

パワハラの6類型と主な判断例(※厚生労働省の指針を参考)

▲ 該当しないと考えられる		▲ 該当すると考えられる
誤ってぶつかる	身体的な攻撃	物を投げつける
遅刻などを何度も注意されても繰り返すプレーヤーを一定程度強く注意	精神的な攻撃	みんなの前で大声で威圧的に繰り返し叱る
新人プレーヤーを育成するため短時間、別室で研修	人間関係からの切り離し	トレーニングから外して長時間、別室に隔離
育成のため、現状よりも少し高いレベルのトレーニングやクラブの課題を任せる	過大な要求	トレーニングやクラブとは関係ない雑用を強制的にさせる
能力に応じて一定程度、トレーニングやクラブの内容や量を軽減する	過小な要求	気に入らないプレーヤーに嫌がらせで役割を与えない
本人の了解を得て、個人情報クラブマネージャーに伝え、配慮を促す	個の侵害	様々な個人情報を本人の了解を得ずにばらす

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

暴力・暴言となり得る振る舞い/言葉遣い、リスペクトを欠く行動/発言

暴言（主には指導者から選手。指導者から保護者、保護者から選手、選手同士等を含む）

- 人権、人格、存在を否定する言葉
最低、クズ、キモい、邪魔、出て行け、帰れ、死ね、てめえ、この野郎、貴様、次から来るな、消えろ、人間じゃない、ダメと頭ごなしに否定する
- 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉
役立たず、下手くそ、アホ、バカ、男/女みたい、オカマ、お前みたいのがいるからこのチームがだめになる、お前はロボットか
- 身体的特徴をけなす言葉
チビ、デブ、ブタ、ガリ
- 恐怖感を与える言葉
殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、殺すぞ
- SNSやチームのブログに選手を特定できるように上記に類する書き込みを行う
〇〇君は今日の練習でも上手くなりませんでしたね
- 誹謗中傷
他チームへの移籍を検討している選手について、LINEで「〇〇君は移籍するので残りのメンバーで頑張りましょう」と書き込む、ブログで「〇〇コーチ、〇〇チームはダメだ」と誹謗中傷する、母子家庭の子供に対して「なんでお前一人っ子なんだ」と言う等

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

暴力・暴言となり得る振る舞い/言葉遣い、リスペクトを欠く行動/発言

指導者の暴力的（攻撃的/虐待的含む）振る舞い（行動、行為）

- 殴る、蹴る、叩く、顔を引っ張る、胸を突く（つかむ）突き飛ばす・押し倒す、デコピン、ボールをけて当てる、にらみつける等
- 選手と近接して高圧的・威圧的に指導する
- 「おい」「こら」と大声で選手を高圧的、威嚇的に指導する
- 継続的且つ度を越えた大声で選手を指導する行為、怒鳴りつける
- 物に当たる、物を投げる、床をける等
- 選手を長時間グラウンドに立たせる、水分を取らせずに罰走をさせる、坊主頭を強要する、他チームの選手と交流禁止を強要する等
- 正当な理由なく一部の選手を練習に参加させない、指導者に逆らった選手を試合に出させない、トップチーム以外の選手に「部費だけ払って練習に来なくいい」と発言する等特定の選手に対して、その他の選手と比較して明らかに不平等に扱う
- 「サッカーは格闘技だ。後ろから押せ」と相手選手へのファールを強要する等

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

望ましいコーチングスタイル

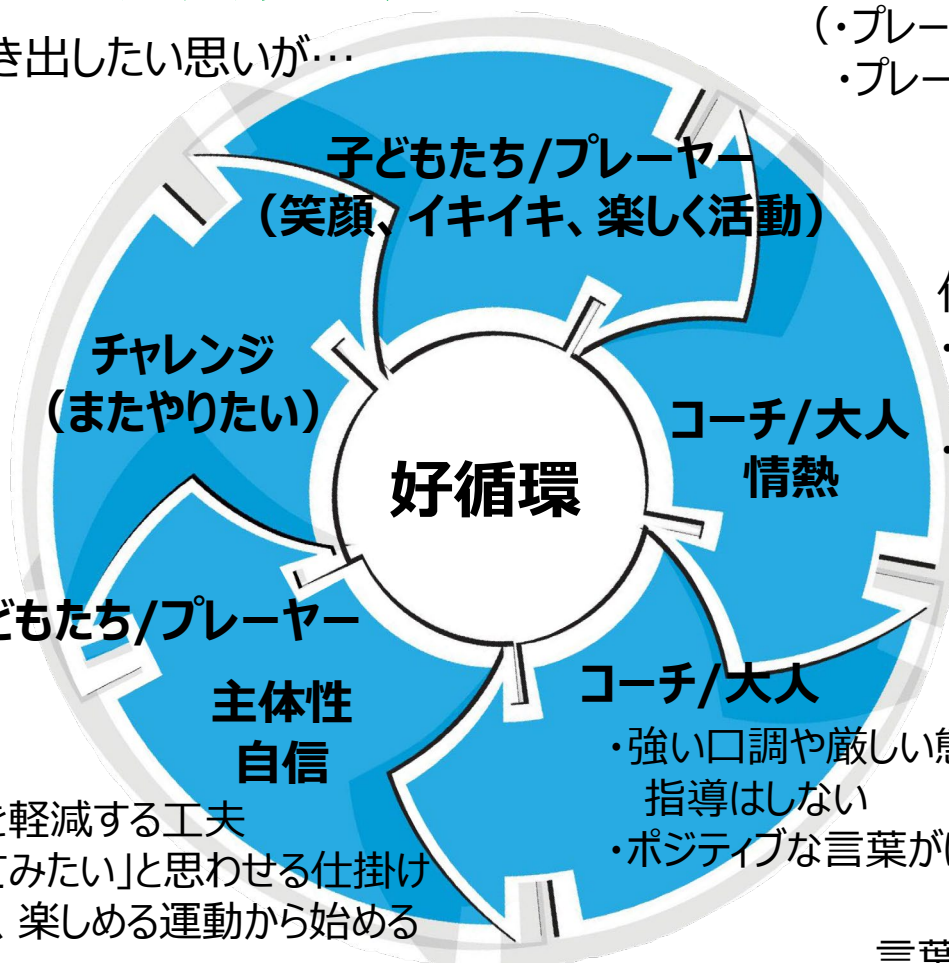
良いパフォーマンスを引き出したい思いが...



子どもたち/プレーヤー

「自己決定した行動こそ、
パフォーマンスは伸びやすい」

- ・不安を軽減する工夫
- ・「やってみたい」と思わせる仕掛け
- ・できる、楽しめる運動から始める



プレーヤーズファースト

- （・プレーヤーもコーチも主役
- ・プレーヤーが主役、コーチはサポート）

伝える力/観察力

- ・指導の難しさを知る（相手を知ることが最大の支援）
- ・情報の可視化（見える化）



言葉⇒イメージ⇒感情⇒パフォーマンス

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

1～8までのカードを振り分けましょう（5分）

- 1 トレーニング中にやる気を感じられない、ミスばかりするプレイヤーにはトレーニングをやめて帰るよう指示した
- 2 トレーニングに遅れてきたプレイヤーを正座させてお説教をした。
- 3 トレーニング中に不適切なプレー、例えばユニフォームを引っ張るようなファールを注意せずに容認した。
- 4 新人コーチが早くチームに溶け込むために「おい、〇〇」と、子供たち同士で使っているあだ名で呼んだ。
- 5 集中力がないプレイヤーに、「おい、本当に聞いているのか」と怒鳴る。
- 6 以前より活動予定を示していたので、親戚の結婚式なのにトレーニングを休ませない。
- 7 保護者から厳しくしてほしいと容認されているから、ゲンコツくらいはいいだろう。
- 8 地域スポーツクラブの会費を一時的に私的に使った。

グリーン	イエロー	レッド

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

指導者の持つ影響力を自覚しましょう

「お前、何やってんだこの野郎！」

【個人ワーク】パワハラ判断

全く問題ない ←	グレイゾーン	→ 明らかに問題あり

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

パワハラを構成する要素 ※2013年12月文部科学省実践調査研究協力者会議

「お前、何やってんだこの野郎！」

- ①優越的な関係に基づいて行われる
- ②指導の適正な範囲を超えている
- ③身体的・精神的な苦痛を与える

※引用：「実践！グッドコーチング」PHP研究所（日本スポーツ協会、日本スポーツ法学会）

3.暴力暴言等（パワーハラスメント）

「お前、何やってんだこの野郎！」

チェック項目	評価
① 暴行・傷害・脅迫・名誉毀損等、刑法に抵触する言動をしていませんか	
② 人格否定や体罰等、人間としての尊厳を侵害する言動をしていませんか	
③ 地位や立場等、人間関係の優位性が背景にありませんか	
④ 指導や教育の適正な範囲を超えていませんか	
⑤ 複数回、または、執拗ではありませんか	
⑥ 相手に身体的・精神的苦痛を与えていませんか	
⑦ 周りの選手が萎縮する等、活動環境を悪化させていませんか	

レベルⅣ：刑法に触れる

レベルⅢ：パワーハラというべきレベル（4.0以上）

レベルⅡ：明らかなパワーハラとまでは言えないが不適切なところがあるレベル（1.5～3.5）

レベルⅠ：パワーハラでないとと言えるか慎重な判断が必要なレベル（1.0以下）

○1.0
該当

△0.5
半分該当

×0.0
該当せず

引用：PHP研究所（実践！グッドコーチング～暴力・パワーハラのないスポーツ指導を目指して～）

しない、させない、許さない

関わる人全員の役割

コンプライアンスから文化へ

最後に①

取り組んでできていること

リスペクトをベースとすること



「しない」「させない」「許さない」

全員の役割であること

コンプライアンスから文化へ

最後に②

取り組んでできていること



埼玉県サッカー協会は、
世界に先駆けて「スポーツモラル」の向上を
目指しています



Thank you.

